

2025 年 10 月 3 日(金)8:40 から CRT スタジオで収録

練習で泣いて、試合で笑え（椎名弘先生）

開倫塾

塾長 林明夫

1. (1) 中学校や高校からの出張授業の要請事項の中に、「学校時代に、どのように過ごしたかをお話ください」という項目があります。
(2) そのような場合には、「ブルドッグ魂（食いついたら離すな）」、「練習で泣いて、試合で笑え」「一所懸命」「スポーツの三つの宝、
①練習は不可能を可能にする、
②フェアプレイ、
③よき友」
(3) この 4 つのことばを紹介しながら、中学校時代、高校時代、大学時代のお話をさせていただいています。
2. (1) 最初の「ブルドッグ魂（食いついたら離すな）」は、足利市立山辺中学校の中学 2 年・3 年のクラス担任の岡田忠治先生が、HR や卒業式の日にお話くださったおことばです。
(2) 今のブルドッグは、やさしくてかわいいうイメージですが、昔のブルドッグは、ガブッと噛んだら離さないイメージでした。岡田先生は、ブルドッグのように、ガブッと噛んだら離さない、一度始めたことは最後まであきらめずにやり続けるよう教えてくださいました。
(3) 岡田先生は、技術家庭の先生でしたが、女子バスケットチームを、粘り強い練習で、毎年のように県大会優勝に導きました。
3. (1) 二番目の、「練習で泣いて、試合で笑え」は、同じく足利市立山辺中学校で、柔道を教えていただいた、椎名弘先生の教えです。
(2) 先生は、柔道 5 段で、宇都宮大学時代に柔道部のキャプテンでしたので、練習は厳しいものでした。
(3) 放課後は、毎日 2 時間練習、夏休みは、毎年稽古合宿、真冬は、早朝、登校前の 1 週間の寒中稽古。
4. (1) 中学 3 年生になると、放課後の練習の後、足利市内の造士館、昭徳館等の柔道場で、社会人との稽古、夏休みは、栃木県警機動隊との稽古合宿など、
(2) 泣きはしませんでした、かなり激しい練習でした。
(3) 練習のおかげで、中学入学前は、受け身もできなかったのに、試合にも出られるように

なりました。

5. (1) 三番目の「一所懸命」は、栃木県立足利高校の恒例行事「マラソン大会」のときに配布された「はちまき」手ぬぐいに印刷されていたことばです。
- (2) 3年間同じクラス担任の大阿久基次先生に、これは「一生懸命」ではないですかと質問したところ、「林君は、勉強が足りない。もともとは、一所懸命だったのだよ」と教えられました。
- (3) 以来、「一つの所で、命を懸けるくらい、熱心に物事に取り組む」というこのことばが、好きになりました。
6. (1) 四番目の「スポーツの三つの宝」は、慶應義塾大学塾長でテニス部の部長であった小泉信三先生の教えとして、大学入学以来、又、卒業後も、何回も耳にしているものです。
- (2) 「スポーツに打ち込むと、三つの宝物を得ることができる。
- ①一つは、練習は不可能を可能にするという精神。あまりうまくできなかったことも、練習を積み重ねることにより、できるようになる。
- ②もう一つは、フェアプレイの精神。スポーツにはルールがあるので、ルールの中でプレイをする。相手チームの健闘を称え、高く評価し、敬う、尊敬し合う。
- ③もう一つは、よき友。一緒に練習したチームのメンバー、先輩、後輩、相手チームのメンバー、監督、コーチ、審判の先生方など、少しずつ仲良くなり、友達になる、同じ志をもち、同じスポーツをする人は、みんな、よき友」
- (3) 「スポーツの三つの宝」は、すべての「部活動」にも当てはまります。

開倫塾では、「塾生の自覚」を促す「武者語り」の時間を、毎時間、行うこととなっています。塾生の皆様にも、先生方の学校時代のお話や、「私の好きなことば」を紹介。「自覚を促す」取り組みとしてください。

2025年10月1日（水）8時35分